



Gold-QPD 研修生へのお知らせ

- 高齢者の「ケア」と「キユア」を担う「キューピッド」鍼灸師 -

TOPICS

第 9 回統合医療展 2013 で川並会長と兵頭常務理事がプレゼンテーション!

テーマは「統合医療による“認知症専門鍼灸師 Gold-QPD 育成講座”の将来展望」

《第 9 回統合医療展》

開催日時：2013 年 2 月 19-20 日 場所：東京ビックサイト（国際展示場）第一日目 11:35~12:35

《配布資料》 DVD：街ぐるみ認知症相談センターの活動（文科省助成金事業）

インタビュー記事：川並汪一（中医臨床 2011 年 6 月号）

論文別冊 1：武田伸一（中医臨床 2012 年 12 月号）

論文別冊 2：矢野司、兵頭明（医道の日本 2013 年 1 月号）（各 100 部）

最初に川並会長が Gold-QPD 育成事業を立ち上げた経過を紹介されました。文科省の社会連携事業の研究で、「街ぐるみ認知症相談センター」を立ち上げ、認知症の早期発見、社会連携をし始めた中で、認知症の治療の調査研究を追求した。その中で特筆すべきは、天津中医薬大学の韓景献先生の三焦鍼法が、基礎・臨床研究で顕著な成績と効果（英文論文発表）を示したことである。10 年以上にわたり天津と共同研究をしてきた兵頭先生が三焦鍼法を日本で受け継ぐことになったのは正に奇遇というものである。社団法人老人病研究会は 2010 年に西洋医学と鍼灸との統合医療で認知症を中心とした専門鍼灸師の育成事業である認知症 Gold-QPD 育成講座を立ち上げ、次いで講座の構成（ブロンズ・シルバー・ゴールド）について説明があった。

兵頭常務理事が三焦鍼法の解説、技術の標準化、更には動画を用いて実際に患者を施術しているところや韓景献先生の講義や実技を解説されました。

三焦鍼法による治療効果(QOL)の改善が、初動効果、中期効果、遷延効果と施術回数が長くなるに従い、患者さんの状態が良くなり MMSE の点数が維持や時には上昇することを複数の症例報告をもって示されました。

その後川並会長から臨床効果のまとめ、ゴールド研修生の分布、Gold-QPD 資格認定者の役割を話し、最後に将来展望(OHP)を示されました。

三焦の鍼法による治療効果(QOL)

初動効果 61% (施術5回未満)

頭すっきり身体が軽く気持ちよと笑顔をみせる。
冗談と音話をし、関節の動きと体調が良く自ら進んで話す。
怒りや感情が抑制されるので、週2回の鍼治療を要求。

中期効果 34% (施術5回~13回未満)

鍼灸師の顔覚え覚醒レベル上昇、受け答えの言葉が豊富なキャッチボール。
尿意便意が分かり、体調良くなり徘徊や暴力がなくなった本人と家族がいう。
手足の冷え改善、麻痺と筋緊張が軽快、衣服の着脱も可能で食欲亢進した。

遷延効果 14% (施術18回~58回未満)

覚醒レベルが上昇、目に力あり、奥さんを探すようになった。
裁縫を再開、風呂のスイッチ理解し使用が可能になった。
同級生の死を理解しピンコロを期待、不満を聞いてもらえる喜びを示す

以上、MMSEなどで表現されない日常生活上の質的向上が目ままいい。
今後、これらの数値化を心がけたい。

Summary of the Gold-QPD Program

MMSEについて

いずれの患者群でも上昇傾向(AD, VaD, L-SD)

QOL(生活の質)の上昇

MMSEで表現できない心の落ち着きと覚醒効果
患者本人、家族、介護者は生きがいを感じるようになった。

ADLや介護度に有意な変化を認めず。

不定愁訴改善が認知症患者の精神状態を安定化し、
その結果がMMSEやQOLの改善をうながしたといえる。

結論

- 1) 東西両医学の本格的統合医療システム
- 2) 三焦鍼法は健康長寿と認知症予防と治療
- 3) 健康長寿の実現は介護・医療費増大の抑制
- 4) Gold-QPD資格認定者は高齢社会で活躍
- 5) 一施設一Gold-QPD鍼灸師の存在が期待

聴衆は立見席の人達も含め途中で退席する方も無く熱心に聴いていました。



報告者：湧口泰昌